

あられ これ

法事の種類

中 隠

初七日／関西では亡くなった前日から数えて七日目

二七日 (ふたなぬか)／十四日目

三七日 (みなぬか)／二十一日目

四七日 (よなぬか)／二十八日目

五七日 (ごなぬか)／三十五日目

六七日 (むなぬか)／四十二日目

七七日 (なななぬか)／四十九日目 (満中陰)

満中陰には親戚、故人が親しかった方々を招き僧侶にお経をあげてもらいのちに宴席をもうけ、もてなします。

◎百カ日／百日目

◎月忌 (がつき)／毎月毎月の命日

◎祥月命日 (しょうつきめいにち)／毎年毎年の命日

◎年会

一周忌／亡くなった月から一年目

※一周忌だけは(満)で数えます。つまり死亡年の翌年の祥月命日になるわけです。

三回忌／二年目

七回忌／六年目

十三回忌／十二年目

十七回忌／十六年目

二十五回忌／二十四年目

三十三回忌／三十二年目

五十回忌／四十九年目

百回忌／九十九年目

(宗派・地域によって二十三・二十七・三十七回忌等もおつとめする事もある)

月の命日年の命日も家族内で営んでも良いでしょう。しかし、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十五回忌、三十三回忌の法要は一層手厚く営みます。それ以外はささやかながらも、まごころのこもった法事を営みます。

五十回忌、百回忌を営まれる場合は孫の代になっていますので、そこまで家系が続くということは“慶び事”と考えるべきでしょう。建碑と仏壇の入仏、五十回忌、百回忌の食飯は、赤飯でします。

法事の計画

①予算

接待費(茶菓あるいは食事)、会場を使用する場合は、会場費(仏事殿あるいはお寺)、引出物とおみやげ、お布施、必要であればお車代、案内状。

②日時の決定

命日に行う事が理想ですが僧侶の都合と集まっていたり方々の都合も考慮し、命日よりなるべく遅れることのないようにする。僧侶には三カ月前に、遅くとも一カ月前迄には連絡する。

③招待者

故人と縁の深かった人、葬儀の際にお世話になった方々をお招きする。

④費用

家を継いでいる人が主催となりますが、平等に子供達が負担し、御仏前として金封紙に包むことです。

お供物・仏花

お供物は、おもち、果物、お菓子等が適当である。なお、生ぐさい物はしない、トゲのあるもの、毒性のある臭いがきついものは避けるようにします。

引出物

引出物の上書きは「粗供養」「供養志」等とし、下に喪主の名を書き、故人の何回忌かを記入します。三十三回忌までは水引の色は黄銀となります。引出物は一人一つでなく、一家に一つ渡します。

故人と縁の深かった人達が故人をしのんで、御仏前、お供え物を仏様へと持参されると思います。読経後、集まっていたり方々へお礼を述べ、宴席を設け故人の思い出を語りながら食事をします。お帰りの際は集まっていたり方々へ御供物を少しずつ持って帰って頂くと同時に粗供養をお渡しします。

地域・宗派により異なる場合がございます。